

「この岩の上に、わたしの教会を建てる」

【聖書箇所】 マタイ福音書 16 章 18～20 節

ベレーシート

●前回、イエシュアが弟子たちに、「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」と尋ねたのに対して、シモン・ペテロが答えました。「**あなたは生ける神の子キリストです**」と。これがいかに重要な告白かを私たちは理解する必要があります。イエシュアはご自分のことを「人の子」と言っていました。ご自分が「キリスト」であるとは一言も言っていない。しかし、イエシュアこそ旧約で預言されたメシアなのです。シモン・ペテロの告白を聞いたイエシュアは、「あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です」と言われました。

●マタイの福音書 16 章のピリポ・カイサリアでのこのやり取りは、この福音書の**分水嶺**と言われます。なにゆえに分水嶺と言われるのでしょうか。それは、イエシュアがこれまで語られなかったこと、なされなかったことが、この時点を境にして始まっていくからです。前回、イエシュアは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」と尋ねました。すると弟子たちは「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています」と答えました。これはイエシュアが預言者として人々の目に映っていたことを示しています。このことについて、イエシュアは一切否定していません。事実、そうであったからです。ただ、イエシュアが預言者としての務めを果たしただけだとしたら、マタイの福音書 1 章で御使いがヨセフに語ったように、「この方ご自分の民をその罪からお救いになる」というイエシュアという名前の意味と、また「その名はインマヌエル(神が私たちと共におられる)と呼ばれる」という預言とが成就することは決してないのです。**イエシュア**、および**インマヌエル**という名前の意味することが実現するためには、イエシュアのキリスト(メシア)としての職分が完全に果たされなければならないのです。メシアとは、「**預言者、祭司、王**」としての務めが、神からの油注ぎを受けて完全に果たされることです。この務めを果たすために、イエシュアが神の御子として遣わされたことを信じ理解することが、御国の民となるために必要不可欠なことなのです。ですから、イエシュアが預言者としての務めを果たしたとしても、それだけで神のご計画を実現することはできないのです。また、イエシュアがこの時代のユダヤ人たちが期待するような、つまりローマの支配から解放してくれるような王となったとしても、やはりそれだけでは神のご計画を実現することができないのです。神のご計画が正しく実現されるためには、イエシュアが**祭司としての務め**を果たすことがどうしても必要だったのです。しかし、このことが当時のユダヤ人には全く理解できなかったのです。なぜなら、当時のユダヤ社会には伝統的な確固とした祭司制度が厳然として存在していたからです。しかしその祭司制度はすでに固定化し、いのちは枯渇し、儀式も形骸化したものとなっていました。イエシュアがメシアとして神のみこころにかなった**祭司としての務め**を実現されるためには、革命的な戦いを余儀なくされていたのです。

●メシアの三つの務めの中で最も重要な務めは祭司の務めです。それが預言者の務めと王の務めを導きま

す。つまり、神のみことばとそのみこころを民に告げる預言者の務めも、神の代理者として神の民を治め支配する王の務めも、すべてはこの祭司の務めにかかっているのです。また、預言者は御国が完成するまでの一時的な務めにすぎませんが、祭司と王の務めは永遠に存続するのです。それゆえ、祭司的な務めを回復することはきわめて重要なのです。その戦いがいよいよ本格化していくという意味で、16章は分水嶺となる箇所なのです。このような流れの中で、**今回のテキスト**を学んで行きたいと思います。

【新改訳 2017】マタイの福音書 16 章 18～20 節

18 「そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。

わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。

19 わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐられ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

20 そのときイエスは弟子たちに、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と命じられた。

●わずか 3 節のイエシュアのことばですが、その 1 節 1 節を味わって行きたいと思います。

1. わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てる

●まず、18 節に目を留めたいと思います。「そこで、わたしもあなたに言います」とは、バルヨナ・シモンが「あなたは生ける神の子キリストです」という告白をしたので、「わたしもあなたに言う」と言って告げたことばが 18 節以降のことばです。つまり、キリストとはどういうものを語ろうとしているのです。

(1) 「あなたはペテロです」

●「あなたはペテロです」の「ペテロ」は「ペテロス」(Πέτρος)です。そして「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます」の「岩」は「ペトラ」(πέτρα)となっています。「ペテロス」は「小さな岩、石ころ」を意味し、「ペトラ」は「大岩、岩盤」を意味します。つまり、その大岩・岩盤の上に、イエシュアはご自分の教会を建てようと言っているのです。この「ペトラ」(大岩・岩盤)とは何でしょうか。それは、ペテロがした「あなたは生ける神の子キリストです」という告白です。その告白の上に、イエシュアはご自分の教会を建てると言っているのです。

●聖書協会訳は「あなたはメシア、生ける神の子です」と訳しています。つまり、聖書協会訳(新共同訳)は、一部を除いて、キリストという訳語を使わずにメシアと訳しています。逆に、新改訳の場合はメシアという訳語は一切使わずキリストで統一しています。「キリスト」はギリシア語の「クリストス」(Χριστός)の訳語。「メシア」はヘブル語の「マーシーアッハ」(מָשִׁיחַ)の訳語で、いずれも「油注がれた者」という意味であり、預言者、祭司、王に対して使われます。この三つの務めを兼ね備えた人物はダビデですが、そのダビデはイエシュアを指し示す型です。

(2) 「わたしの教会」

●「教会」と訳されたギリシア語は「エックレーシア」(ἐκκλησία)です。これは二つの語彙からなっています。「～から出る」という前置詞「エク」(ἐκ)と「呼び出す、集める」を意味する「クレーシア」(κλησία)で、二つを合わせると「神によって(世から)呼び出された者、召し出された者、集められた者」という意味です。教会のヘブル語訳は「ケヒラー」(קְהִלָּה)で、「集会、会衆」を意味します。今日においても、「教会」ということばを使わずに、「集会」ということばを使っている団体があります。「エックレーシア」(ἐκκλησία)という語彙は福音書ではマタイのここが初出箇所、あと一つ、マタイ 18 章 17 節にあるのみです。他は「使徒の働き」から「黙示録」まで含めて(ペテロとユダを除いて)、114 回使われています。

●なぜイエシュアは「わたしの教会」と言ったのでしょうか。それはイエシュアをメシアと告白する新しい会衆による集会を立ち上げるためでした。これは旧約聖書においては隠されていましたが、この奥義を啓示されたのは使徒パウロでした。パウロは教会のことを「**新しい一人の人**」(One Newman)ということばで表しました。それはイスラエルとは異なる会衆—ユダヤ人と異邦人からなる会衆—なのです。

【新改訳 2017】エペソ人の手紙 2 章 13～16 節

- 13 しかし、かつては遠く離れていた**あなたがた**も、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。(※「あなたがた」とは異邦人のこと)
- 14 実に、キリストこそ**私たちの**平和です。キリストは**私たち**二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、(※「私たち」とはユダヤ人と異邦人のこと)
- 15 様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において**新しい一人の人**に造り上げて平和を実現し、
- 16 二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させました。

(3) 「建てます」

●「**建てます**」と訳された「オイコドメオー」(οικοδομέω)は未来形です。いつ教会が始まったのかと言えば、それはイエシュアが復活されてから 50 日目のペンテコステです。神がご自分の家を「建てる」というのは、神のご計画における重要な概念です。創世記 2 章 18 節に「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう」とありますが、この「**造ろう**」と訳されているヘブル語の「バーナー」(בָּנֵה)が「建てる」を意味しています。ちなみに、上記に引用したエペソ書 2 章 15 節の「ご自分において新しい一人の人に造り上げて」の「**造り上げて**」は「**創造する**」を意味する「バーラー」(בָּרָא)で、イエシュアの十字架の死と復活によって造り上げてくださった一回的な歴史的出来事によるものなのです。神のご計画の究極の目的は、神と人とが共に住む家を新しく創造して、そこに神と人とが永遠に住むことなのです。その救いは、エデンの園、幕屋、神殿、御国の概念と全く同じです。ただ構成員が異なるだけです。つまり、神に呼び集められた会衆(エックレーシア=教会、英語ではコングリーゲーション)は、イエシュアがメシアだと信じる者たちのことであり、ユダヤ人のみならず、異邦人もも含んでいるのです。聖書ではユダヤ人と異邦人の分けしがありません。

(4) 「よみの門も打ち勝てない」

●「よみの門もそれに打ち勝つことはできません」とあります。「よみの門」とはどういう門でしょうか。「よみ」とは「ハデース」(ᾍδης)で、それは「死者が終末のさばきを待つ間の中間状態で置かれる場所」、すなわち、死者の行く場所(地の底)を意味します。ヘブル語では「シェオール」(שְׁאוֹל)で「死の家」です。したがって、「よみの門」とは死者たちが行く家の門のことであり、死者を閉じ込めて、絶対に外にでないようにさせているものです。それに対して「教会」は神の支配する家であり、そこは天に通じる門があります。「門」は町を敵から防御するためにありますが、同時に、「門」には力や勢力という意味があります。ですから、よみの門は天に通じる門を持つ教会に対して「打ち勝つことができない」と言い表されているのです。なぜなら、教会は死から勝利するイエシュア・メシアが土台(頭石)となっているからです。屋根に十字架のある建物が教会だと思いをしはなりません。教会とは建物ではなく、霊的なものなのです。教会とは「神によってこの世から呼び出されて、イエシュアこそメシアであることを信じて、よみの門もそれに打ち勝つことができない力を与えられているところの会衆」のことです。また、教会は「不法の者」と呼ばれる反キリストの現われを引き止めている存在でもあるのです(Ⅱテサロニケ 2:6~7)。これについては学ぶことが多くありますが、またの機会にしたいと思います。

2. わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます

19 「わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

(1) 「天の御国の鍵」

●「天の御国の鍵」とは、御国の門を開くことのできる鍵のことです。ここで「あなた」を意味するのは直接的にはペテロのことを指していますが、弟子たち(使徒たち)を代表していると解することができます。というのも、「鍵」が複数形になっているからです。「天の御国の鍵」が与えられるということは、天の御国についての権威が与えられるということであり、そもそもメシアに与えられた権威という鍵を主の弟子たちにも与えたということです。

【新改訳 2017】イザヤ書 22 章 22 節

わたしはまた、彼の肩にダビデの家の鍵を置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。

●このイザヤ書のことばにある「彼」とは、直接的にはヒゼキヤ王の執事であったシェブナが失脚し、代わって立てられた「エルヤキム」を指しています。彼の肩にダビデの家の鍵を置くというのは、彼が王の権威を代表しているからです。ちなみに、昔の鍵は大変大きなものであったので、「肩に置く」という言い方がなされています。そのダビデの家の鍵は、イエシュアの王としての務めの型を預言しています。ヨハネの黙示録 3 章 7 節には、イエシュアが「ダビデの鍵を持っている方」と記されています。

【新改訳 2017】ヨハネの黙示録 3 章 7 節

また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、**ダビデの鍵を持っている方、彼が開くと、だれも閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる――。**

●カトリック教会はマタイ 16 章 19 節の「鍵」が、そのままペテロに与えられたものと解釈し、そのペテロの後継者である教皇が全教会における権威を裏付けていると解釈しています。プロテスタント教会の場合は、イエシュアからペテロひとりではなく、使徒たち全員に、さらに御国の民全員に天の御国の鍵を委ねられ、行使できるものと解釈されています。

(2) 「つなぐ」と「解く」とはどういう意味か

●王的権威の象徴である「鍵」を行使することによって、教会は「地上でつなぐことは天においてもつなぐがれ、地上で解くことは天においても解かれます」ということが可能となることをイエシュアは述べています。この「つなぐ」とか「解く」とはどういうことでしょうか。これは口伝律法(ミシュナー)におけるラビ的用語だと言われています。というのは、ラビたちは自分たちの共同体から聖書の律法(トーラー)の解釈について絶えず相談を受けていました。そして彼らはその解釈において、ある種の活動が「つなぐ」、すなわち「禁ずる」こと、あるいは「解く」、すなわち「許す」ことだという裁定をしていたのです。「つなぐ」「解く」「禁ずる」「許す」、いずれにしても、これらはいわば**王的務めをあらわす用語**なのです。イエシュアは教会に対して、王的務めとして、ある事柄において「許可し、禁ずる」という権威を与えていることを教えています。これが「あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます」という意味なのです。

3. メシアの秘密

20 そのときイエスは弟子たちに、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と命じられた。

●最後に、イエシュアは弟子たちに一つの忠告を与えます。「ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない」と。なぜイエシュアは忠告したのでしょうか。そのことが今回のメッセージの焦点であり、分水嶺と言われる所以なのです。もう一度、これまでのイエシュアと弟子たちのやり取りを振り返ってみましょう。まず、イエシュアはご自分のことを「人々はだれだと言っていますか」と尋ね、多くの者たちがイエシュアのことを「預言者」だと言っていることが分かりました。このことは間違っていない。「神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました」(ヘブル 1:1~2)とあるとおりだからです。

●次に、イエシュアは弟子たちに「あなたがたはわたしをだれだと言いますか」と質問しました。すると弟子の筆頭であるペテロが「あなたは生ける神の子キリストです」と答えて、イエシュアを驚かせました。しかも、この告白は天の父が啓示しなければ言えない告白だとしました。この告白がとても重要な事柄なのですが、ペテロが「あなたはキリスト(メシア)です」と言ったとしても、その意味するところをペテロが

正しく理解していないことをイエシュアは知っていたのです。そこで、イエシュアはペテロが**告白したこと**(ペトラ=大岩・岩盤)の上に、わたしの教会を建てるという計画を話され、その教会に**王的権威**を与えることを、「天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます」ということばで言い表したのです。ここまでの話で欠けているものがあります。それは**祭司的務め**です。この働きなくしてイエシュアがキリスト(メシア)であるとは言えないのです。

●**預言者的務め**はすでに果たされました。そしてやがて死と闇の勢力に打ち勝つ**王的務め**が果たされるのはキリストの再臨後のことです。当時の人々はイエシュアに、その**王的権威**をもってローマの支配から自分たちを解放してくれるように期待していました。たのです。しかしその前に果たさなければならぬ**務め**があります。それが**祭司的務め**なのです。イエシュアはこの務めを果たすために人となってこの世に来られたのでした。このことを学ぶことで、なぜ人間が神のかたちで造られたのか理解できます。この点については、また改めて学ぶことといたします。



●この**祭司的務め**を真に理解するまでは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、とイエシュアは言われたのです。そして、イエシュアが「**受難と復活に対する予告**」をしたのが、21節からの出来事です。

【新改訳 2017】マタイの福音書 16 章 21 節

そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならないことを、弟子たちに示し始められた。

●これは次回に取り上げますが、まさにこれこそ**祭司的務めの骨頂**なのです。

ベアハリート

●今日は、キリスト(メシア)には**三つの務め**が果たされなければならないこと、そして、とりわけ**祭司**としての務めが重要であることを心に留めていただきたいのです。祭司の務めについてはヘブル人への手紙を深く学ばなければなりません、以下のみことばをそれぞれ考えてみてください。

【新改訳 2017】ヘブル人への手紙 2 章 9~10 節

9 イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。

その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。

10 多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされた

のは、万物の存在の目的であり、また原因でもある**神に、ふさわしいことであつた**のです。

●特に、最後の「**神に、ふさわしいことであつた**」という意味を、この一週間、一人ひとり黙想していただければと思います。